２.「領域に関する専門的事項」のモデルカリキュラム

（１）幼児と健康（１単位）

全体目標：　当該科目では、領域「健康」の指導に関する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身に付ける。

（１）幼児の健康

一般目標：　幼児期の健康課題と健康の発達的意味を理解する。

到達目標：
１）乳幼児期の心と体、運動発達などの健康課題を説明できる。
２）健康の定義と乳幼児期の健康の意義を説明できる。

（２）体の諸機能の発達と生活習慣の形成

一般目標：　幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解する。

到達目標：
１）乳幼児の体の発達的特徴を説明できる。
２）乳幼児の基本的な生活習慣の形成とその意義を説明できる。

（３）安全な生活と病気の予防

一般目標：　安全な生活と怪我や病気の予防を理解する。

到達目標：
１）幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を理解している。
２）幼児期の怪我の特徴や病気の予防について説明できる。
３）危険に関しリスクとハザードの違いと安全管理を理解している。

（４）幼児期の運動発達と身体活動

一般目標：　幼児期の運動発達の特徴と意義を理解する。

到達目標：
１）乳幼児期の運動発達の特徴を説明できる。
２）幼児期において多様な動きを獲得することの意義を理解している。
３）日常生活における幼児の動きの経験やその配慮など身体活動の在り方を説明できる。

〔留意事項〕
１）幼児期の運動発達における大人との相違について映像資料や事例等を活用し、幼児期において多様な動きを獲得していくことの意義と重要性を理解できるようにする。
２）領域「健康」に関わる学問的基盤や幼児教育に関わる専門性をもって健康における幼児期の課題を講義できる人材が担当するにふさわしい。

考えられる＜授業モデル＞

1）　講義の初めの段階で、健康に関する現代的課題が身近でかつ広範囲にわたっていることを理解するため、最近の子供たちの生活や体力などの資料を提示し、子供の健康に関する課題を考える機会を設ける。

（1）－1)、(1）－2)、(2）－2)、(3）－2)、(4）－1)、(4）－2)

2）　幼児の気になる姿や体のおかしさなどを学生自らが考える機会を通して、そのほとんどが幼児の健康に関わる身近な問題であることを理解し、その背景について考える。

（1）－1)、(1）－2)、(2）－2)、(3）－2)、(4）－1)、(4）－2)

3）　危険に関し、リスクとハザードの違いとその内容を理解するため、幼児にとっての危険な場所や遊び方など実際に探したり体験したりするなどの機会を設ける。

（2）－1)、(3）－1)、(3）－2)、(3）－3)、(4）－2)

4）　身近な環境や遊具などを活用し、投げるやころがるなどの多様な動きを理解したり、これらの動きを引き出す環境を体験しながら理解する機会を設ける。

（4）－1)、(4）－2)、(4）－3)

＊上記授業モデルに付記した番号は、特に関連の深い到達目標の番号であり、番号としては示していないが、他に関連する項目もあるので、事例の着眼点や授業展開の仕方によって異なってくることに留意。

（２）幼児と人間関係（１単位）

全体目標：　当該科目では、領域「人間関係」の指導の基盤となる、幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身に付ける。

（１）幼児と人間関係における現代的課題

一般目標：　幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。

到達目標：
1）幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景を理解している。
2）人と関わる力の育ちがその後に続く一人一人の人生を支える力となることを理解している。

（２）幼児期の発達と領域「人間関係」

一般目標：　幼児期の人間関係の発達について、幼稚園生活における関係発達論的視点から理解する。

到達目標：
1）乳児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。
2）幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、教師との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点として説明できる。
3）自立心の育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。
4）協同性の育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。
5）道徳性・規範意識の芽生えについて、発達の姿と合わせて説明できる。
6）家族や地域との関わりと育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。

〔留意事項〕
1）映像資料や事例等を活用し、具体的な保育場面や幼児の姿を通して人間関係の発達や指導が理解できるようにする。
2）領域「人間関係」の背景となる学問的基盤や幼児教育に関わる専門性を有する人材が担当するにふさわしい。

考えられる＜授業モデル＞

1）講義の初めの段階で、親子やきょうだい関係、地域における子供同士の関わり等、幼児を取り巻く人間関係について、1950 年代頃からの年代毎に異なる特徴的な事例を挙げながら、現代的特徴と課題を考える機会を設け、講義の内容に関心をもたせる。
（１）－１）

2）幼稚園教育において育みたい資質能力を領域「人間関係」の視点から考察し、大学生活で求められる人と関わる力との関連について話し合う。
（１）－２）

３）　幼児の様々な発達の諸側面が人との関わりの中で育つことについて、それぞれの発達の時期の特徴と関連付けて理解できるように、具体的な事例を基に説明する。

（２）－１)、(２）－２)、(２）－３)、(２）－４)、(２）－５)、(２）－６）

４）　幼稚園生活における決まりにはどのようなものがあるか等について、具体例を挙げ、それぞれの決まりが幼児にとってどのような意味をもつか考え、話し合う機会を設ける。

（２）－５）

５）　人間関係領域の専門性に関わる最新の知見に基づき、集団の中で見られる具体的な幼児の姿や幼児同士の関係の発達が理解できるように説明する。

（２）－１)、(２）－２)、(２）－３)、(２）－４)、(２）－５)、(２）－６）

＊上記授業モデルに付記した番号は、特に関連の深い到達目標の番号であり、番号としては示していないが、他に関連する項目もあるので、事例の着眼点や授業展開の仕方によって異なってくることに留意。

（３）幼児と環境（１単位）

全体目標：　当該科目では、領域「環境」の指導に関連する、幼児を取り巻く環境や、幼児と環境との関わりについての専門的事項における感性を養い、知識・技能を身に付ける。

（１）幼児を取り巻く環境

一般目標：　幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解する。

到達目標：
１）幼児を取り巻く環境の諸側面（物的環境、人的環境、社会的環境、安全等）と、幼児の発達におけるそれらの重要性について説明できる。
２）幼児と環境との関わり方について、専門的概念（能動性、好奇心、探究心、有能感等）を用いて説明できる。
３）知識基盤社会及び持続可能な開発のための教育（ESD）などの幼児を取り巻く環境の現代的課題について説明できる。

（２）幼児の身近な環境との関わりにおける思考・科学的概念の発達

一般目標：　幼児期の思考・科学的概念の発達を理解する。

到達目標：
１）乳幼児期の認知的発達の特徴と筋道を説明できる。
２）乳幼児の物理的、数量・図形との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。
３）乳幼児の生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。

（３）幼児の身近な環境との関わりにおける標識・文字等、情報・施設との関わりの発達

一般目標：　幼児期の標識・文字等、情報・施設との関わりの発達を理解する。

到達目標：
１）乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方を説明できる。
２）乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方について説明できる。

〔留意事項〕
１）各専門的事項については、その根拠となる発達心理学などの理論や概念をおさえるとともに、幼稚園教育の基本などの幼児教育に関わる専門性に基づいて指導をする。
２）領域「環境」の背景となる学問的基盤や幼児教育に関わる専門性を有する人材が担当するにふさわしい。

考えられる＜授業モデル＞

１）各専門的事項については、映像などの視覚的教材を活用し、具体的な事例などを用いて分かりやすく説明する。

（１）－１）、（１）－２）、（１）－３）

２）　幼児に身近な動植物の生態やその栽培・飼育方法を学ぶため、生長の早い植物や野菜の栽培、昆虫の飼育などを行う。（２）－３）

３）　自然物や身近な素材を用いた簡単な製作等、幼児が環境を取り入れて遊ぶ活動を実際に行い、体験的に学ぶ。

（１）－２)、（２）－２)、（２）－３）

４）　大学等の近隣を散歩して、幼児が発見する身近な自然や標識・文字、情報・施設についてグループで話し合ったり、地図を作成したり等、学生たちが改めて身近にある自然や標識・文字に関心をもてる活動を行う。

（２)－３)、（３)－１)、（３)－２）

５）　図書館や公園などの幼児に身近な地域の施設などを実際に参観し、幼児がどのような体験ができるか話し合う。

（３)－２）

＊上記授業モデルに付記した番号は、特に関連の深い到達目標の番号であり、番号としては示していないが、他に関連する項目もあるので、事例の着眼点や授業展開の仕方によって異なってくることに留意。

（４）幼児と言葉（１単位）

全体目標：　当該科目では、領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身に付ける。

（１）言葉のもつ意義と機能

一般目標：　人間にとっての言葉の意義や機能を理解する。

到達目標：
１）人間にとっての話し言葉や書き言葉などの言葉の意義と機能について、説明できる。
２）乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の機能への気付きも含めて説明できる。

（２）言葉に対する感覚を豊かにする実践

一般目標：　言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解する。

到達目標：
１）言葉の楽しさや美しさについて、具体的な例を挙げて説明できる。
２）言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付ける。
３）言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉を豊かにする実践を、幼児の発達の姿と合わせて説明できる。

（３）言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財

一般目標：　幼児にとっての児童文化財の意義を理解する。

到達目標：
１）児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）について、基礎的な知識を身に付ける。
２）幼児の発達における児童文化財の意義について理解する。

〔留意事項〕
１）絵本・物語・紙芝居などの児童文化財を保育にどのように取り入れていくか等、視聴覚教材等を用いながら、具体的な場面や幼児の姿を通して理解できるようにする。
２）領域「言葉」の背景となる学問的基盤や幼児教育に関わる専門性を有する人材が担当するにふさわしい。

考えられる＜授業モデル＞

１）言葉の発達過程において、乳幼児が言葉の意義と機能をどのように理解していくか、映像資料や事例を通して、具体的に説明する。

（１）－２）

２）　言葉の意義や機能について、「言葉による伝え合い」（コミュニケーションとしての機能）や「文字の意味や役割」（文字の機能）を取り上げ、映像資料や事例を通して、具体的な幼児の姿を基に講義する。

（１）－１）、（１）－２）

３）　しりとりやなぞなぞ等、言葉に対する感覚を豊かにする言葉遊びを体験するとともに、言葉遊びと幼児の言葉の発達との関連を考える機会を設ける。

（２）－１）、（２）－２）

４）　絵本・物語・紙芝居などの児童文化財の中に描かれている幼児の姿を読み解くことで、幼児理解を深めるとともに、幼児にとっての児童文化財の意義を考える機会を設ける。

（３）－１）、（３）－２）

５）　絵本・物語・紙芝居などの児童文化財を実際に読んだり、演じたりすることで、その楽しさを体験的に理解し、保育への取り入れ方を具体的に話し合う。

（３）－１）、（３）－２）

＊上記授業モデルに付記した番号は、特に関連の深い到達目標の番号であり、番号としては示していないが、他に関連する項目もあるので、事例の着眼点や授業展開の仕方によって異なってくることに留意。

（５）幼児と表現（１単位）

全体目標：　当該科目では、領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける。

（１）幼児の感性と表現

一般目標：　幼児の表現の姿や、その発達を理解する。

到達目標：
１）幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。
２）表現を生成する過程について理解している。
３）幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。

（２）様々な表現における基礎的な内容

一般目標：　身体・造形・音楽表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。

到達目標：
１）様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。
２）身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。
３）表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
４）協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
５）様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。

〔留意事項〕
１）ICT を活用して表現方法や表現活動の具体例を示したり、学生自身が体験したりできる機会を設ける。
２）授業担当の専門性を生かし、身体表現、造形表現、音楽表現等の指導法に関する学問的基盤を踏まえ、事例や映像資料等を活用しながら、幼児の多様な表現の姿及び表現と発達との関係について具体例を示して説明する。
３）領域「表現」の背景となる学問的基盤や幼児教育に関わる専門性を有する人材が担当するにふさわしい。

考えられる＜授業モデル＞

１）幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現に関し、映像や具体的事例を通して説明し、幼児の世界に関心をもつようにする。

（１）－１）、（１）－２）、（１）－３）

2）　様々な表現を体験することを通し、表現の多様性について説明する。また、表現を生成する過程について、学生自身の体験を通して分析する機会を設ける。

（1）－2)、(2）－3）

3）　身体の諸感覚を通し、身近な素材を用いた表現活動に取り組み、その面白さや可能性、重要性を説明する。

（2）-2)、(2）－3）

4）　自然、生活、文化における様々な表現に触れ、感じたことを共有したり、そのイメージを再構成し表現したりする機会を設ける。

（2）－1)、(2）－2)、(2）－5）

5）　季節や行事、伝統芸能、文化財、文化的活動、伝承遊びなどを体験する機会を設ける。

（2）－5）

＊上記授業モデルに付記した番号は、特に関連の深い到達目標の番号であり、番号としては示していないが、他に関連する項目もあるので、事例の着眼点や授業展開の仕方によって異なってくることに留意。